



令和4年(2022年)1月10日発行

1~6...新春特別企画「名張市民の夢」 6...今年の一文字  
7...新型コロナワクチン 8・9...税の申告 10・11...消防団員募集  
12...認知症の人を支えるために 14...ひまわり 15...2月の相談

新型コロナワクチン 3回目接種を開始 (詳しくは 7ページ)

発行/名張市 秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎ 0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉ pr@city.nabari.mie.jp

## 跳べ！世界へ

### 会場を驚かせた「17m」の衝撃

今年9月、三段跳びで出した記録は日本人3人目となる17m。これまでの練習の成果をしっかりと出せた納得のいくジャンプでした。「17m」は相当高い目標でしたが、まさか、こんなに早く達成できるとは。会場がざわめき、SNSはその話題で持ち切り。もう、浮足立ちましたね。

「次の目標は？」とよく聞かれますが、「焦って記録を伸ばそうとせず、いつでもコンスタントに好記録を出せるようにしよう」。そう助言してくれるのがコーチの松尾先生です。じっくり地道に練習を積み重ね、近いうちに記録更新できればと考えています。

### もう絶対に逃げない

中学生から三段跳びを始めたのですが、最初はいい記録が出ませんでした。でも、中学校の先生の「お前はいつか必ず記録が出る」との言葉を信じて、とにかく練習を続けました。転機が訪れたのが高校3年生の時。細かった身体もしっかりしてきて、初めて全国大会で入賞。三段跳びで5位でした。ようやく結果が出たと思った反面、「まだこれから」と奮い立ちました。同じく練習を続けていた幅跳びでも結果を残したい。そう思ったので

す。中学生のころ、100m走で記録が出ずに、幅跳びに移行したことがあって。「二刀流」にこだわっているのは、「もう絶対に逃げたくない」という強い思いがあるからです。

記録が出なくて嫌気がさすこともありましたが、やめたいと思わなかったのは、陸上が好きだから。やりたいことがあれば、あきらめずに長い目で見るのが大切。「継続は力」ですよね。

### 世界を舞台にどれだけ跳べるか

陸上の楽しさを教えてくれたのは父。今でも大会があれば応援に駆けつけてくれます。「きっと記録が出る」と、近大高専への進学を薦めてくれた中学校の先生、そして、今は、松尾先生とオリンピックも視野に入れてトレーニングの計画を立てています。いろんな人や環境に恵まれているんだなと思い、感謝しています。

伸び続けてきた身長も止まり、自分の体の特徴に合わせた独自のトレーニングも始まったばかり。世界を舞台に、これから自分がどれだけ跳べるか。世界のトップを目指して競技を続けていくことで、見えてくる景色がきっとあると信じています。

私を育ててくれた皆さんに感謝。本当に周囲の環境に恵まれているんだと思います。

近大高専 陸上競技部  
監督 松尾大介さん



### Profile

第90回日本学生陸上競技対抗選手権大会(日本インカレ/昨年9月)では走り幅跳び、三段跳びの2冠。走り幅跳びの記録8.05mは学生歴代10位。そして3連覇となった三段跳びで記録した17.00mは、日本歴代3位。187cmの長身で、成長著しいマルチジャンパーとして期待されている。近畿大学工業高等専門学校専攻科1年。菟野町出身

# 新春特別企画 名張市民の夢

夢を持つことは、誰もがができること。  
夢をもって自分を笑顔に。  
夢を目指して人生を豊かに。  
夢から始まる元気のリレー。  
さあ、令和4年の始まりです！



三段跳びで日本人3人目  
17m超えジャンパー  
伊藤 陸 さん

HAPPY NEW YEAR





**Profile**  
母がスペイン人で、スペイン語が使える仕事をとワイン販売会社に就職。その後、フランスやスペインで、ワイン醸造家に師事。名張でぶどう栽培を始め、滋賀のワイナリーでオリジナルブランドを創設。平成30年に名張商工会議所の「名張ワインプロジェクト」で誕生した「國津果實酒醸造所」(旧國津小学校内)に醸造責任者として招かれた。

國津果實酒醸造所  
なにかこともものり  
**中子 具紀 さん**



## ぶどうが第一

### ぶどうは栽培農家からの預かり物

ワインの味はぶどうの出来で8割決まります。皮ごと絞ったぶどうジュースが酵母の働きで発酵し、その上澄みを一定期間貯蔵するとワインになる。決して複雑な工程ではありません。醸造家は看護師のようなもの。ワインが健康を書しないよう気をつけて、酵母がうまく働いてくれるよう見守ります。初めてワイン造りを教わったのは、フランスで個人ワイナリーを設立し、世界的評価を得ていた大岡弘武さん。のどごしがサラッとしていて身体にスツとしみこんでいく—そんなワインに衝撃をうけました。母の出身地スペインでもワイン造りを経験。いずれも、自分の畑で栽培したぶどうを使い、野生酵母で醸造するスタイルで、私のワイン造りの原点になっています。現在は、山形県などのぶどう農家からの委託醸造が事業の中心。造ったワインを「おいしいですね」と言っていただけるとうれいですが、それは、やっぱり農家からお預かりした大切なぶどうの出来がよかったということ。まずは、生産者が評価されるのが本来です。ワインボトルのラベルにぶどう生産者の名前やロゴをデザインしているのも、そうした思いからです。畑で汗

を流したぶどう生産者の思い描くワインを造ることが私の役割なのです。

### 自分の畑で育てたぶどうで、理想のワインを

自分の畑で育てたぶどうで、自分の理想とするワインを造ろうと、名張でぶどう栽培を始めて7年。農業は使わず、害虫や獣害との戦いが続いています。本当は、雨が少なくぶどう栽培の好適地であるスペインでワイン造りをしようと考えていたのですが、日本で造られた自分好みのワインに出会い、これが造れるんだったら場所にこだわる必要はないなと。いや、むしろ、おもしろい。やってやろうという気持ちになりました。ワイン造りは醸造免許が必要で最低生産量も決められています。でも、國津果實酒醸造所では、免許がある私と一緒にあれば、ワイン造りに挑戦いただくことが可能です。ぶどうを愛する人なら大歓迎。ぶどうが特産の名張で、生産者の数だけワイナリーがあると素敵ですね。私が育てたぶどうで醸造したワインに刺激されて、私がそうであったように「自分もこんなワインを造りたい」という人が出てくるのが今の目標です。



**Profile**  
2019年の「世界ダウン症の日」の日本版ポスターモデルに起用された澤田さん。小学5年で茶道を始め、中学1年で裏千家流准教授・高島宗美さん(つつじが丘)に弟子入り。稽古を続け、25歳に准教授に。現在、名張育成園「とも」が運営する「CAFE & GALLERY ホップ」で週4日働き、地域文庫「私の一冊文庫」代表を務めている。

世界ダウン症の日 啓発ポスターモデル  
**澤田 仁美 さん**



## 私の居場所には愛があふれてる

### 大好きな「お茶」が縁で、全国的な啓発ポスターのモデルに

東京で3年前に開催された「世界ダウン症の日」ポスター発表会。ポスターのモデルとなった33歳の私は、文部科学省の副大臣などの来賓やたくさん報道陣に囲まれ、すごく注目されました。市長さんからは「名張の誇り」って言ってもらえましたが、南宗寺の献茶会に招かれ、裏千家千宗室お家元とご同席させていただけました。まさかこんな日が来るなんて!これは、ぜんぶお茶が取り持ってくれた縁なんです。お茶を始めたのは、小学5年生のとき。用務員さんに誘われ茶道クラブに入りました。とても楽しい時間だったので、中学生になってからも続けたいと思い、母は、近所にお住まいの茶道の先生に弟子入りをお願いしてくれました。「障害のある子を教えたことがないけれど、まずは体験から」と先生に稽古をしてもらえるように。お点前の所作には難しい決まりがありますが、私に分かるように、根気よく丁寧に教えていただきました。それに、私が主催するお茶会「七ヶ茶会」という目標もつくってくれました。先生は「どんなに偉い先生でも、お稽古を怠ればお茶会でうまくできない」とおっしゃ

います。休まずに、お稽古通いを続けた成果が認められ、茶道裏千家から「澤田宗仁」という茶名をいただきました。20歳のころです。私はあまり泣かないのですが、そのときはうれしくて泣いてしまいました。25歳には、お稽古をしていても簡単にはたどり着けない「准教授」の許状を頂きました。

### いろんな人の支えで、チャレンジできる

できれば、茶道は一生の楽しみとして続けていきたいですし、仕事も頑張りたい。何か新しいことも始めようと、最近、近所の人と一緒にヨガ教室にも通い始めました。私が代表を務め、絵本の貸出など本の魅力を伝える「私の一冊文庫」も、コロナ禍で活動方法を変えていかなければなりません。私が小さいころ、療育に携わってくれた先生が母に「娘さんの一生の楽しみを見つけてあげて」と話してくれたそうです。学校の先生やお茶の先生、地域の皆さん、そして、そばで応援してくれる両親の支えがあって、チャレンジできる!いろんな人との出会いで、私の可能性が広がります。私の居場所は、私を支えてくださる人の温かい気持ちでいつも満たされているのです。  
\*本人と家族へのインタビューをもとに記事を作成しています。

## 働きざんまい

### 宝くじで7億円当てても、きっと仕事は続けていく

「就労支援ってどんな仕事なんやろ?よく分からないけど、やってみよう」。怖いもの知らずの性格で飛び込んだのが5年前。市が国の交付金を受けてつくった協議会は、自分の思いを形にしていける職場でした。2人目の子どもを出産後、以前働いていた職場への復帰を試みましたが、どこの保育園もいっぱい…。「家庭で育児をしながら、自分のもつスキルを生かした『在宅ワーク』ができればな」と思いました。本当は保育園が増えればいいのですが、すぐに解決できる問題ではないですね。そうした中、協議会では、在宅ワークに生かせるチラシや動画の製作、ハンドメイドなどの技術を磨ける講座を企画し、子育て中の人の「働く」を応援しています。今まで経験してこなかった「企画」という仕事は、すごく魅力的でした。印象的なのは、おしどり夫婦で有名な放送作家の野々村友紀子さんとお笑い芸人の二丁拳銃さんの対談企画。家庭での男女の役割分担を見直してもらおうと考え、出演交渉から送迎までいろいろこなしました。働くことは大変だけど、人と人とのつながりを生み、自分を成長させてくれます。仕事の喜び

や楽しみを味わってしまったので、何とかして育児と仕事を両立させたい。宝くじで7億円を当てても、きっと仕事は続けていくんだろうなと思います。

### 個人事業主として新たなチャレンジ

仕事で視野が広がり、人生が豊かになる。そんな経験を、多くのママさんにしていてもらいたいんです。特に、女性は育児や家事に縛られ、自分のしたいこと、特に仕事を我慢することが多いですね。協議会の講座を受講して技術力が身につけてきた人や、仕事を紹介させていただける事業所も増えてきました。SNSの更新代行、ネットショップの運営、HPの作成など、在宅ワークの業務は多岐にわたります。いずれも納期や品質を守らなければならず、発注・受注の間に立つのは、大変なこと。でも、協議会による事業は今年度で一旦終了となり、「事業終了とともに、こうした関係を終わらせてしまえないな」という気持ちになりました。今の仕事で出会った講師や受講者、事業所の皆さんに助けていただきながら、今度は、個人事業主としてチャレンジしていきますよ。

名張市経済好循環推進協議会  
**眞鍋 栞 さん**



**Profile**  
市産業チャレンジ支援協議会で2年間、市経済好循環推進協議会で3年間の計5年間、子育て中の人の就労支援に携わる。数々のセミナーを企画し、150人以上のママさんを就労に結び付けた。ここでの経験や人脈を生かし、働くママさんを応援する個人事業主になった3児の母

名張に縁のある一人ひとりが、故郷への熱い思いを胸に、夢をもって懸命に取り組んでいく。そんな一人ひとりの夢が、いろんな場面でつながっていけば、名張がすごく活気あふれるまちになっていく気がしませんか—

名張市民の

# 夢



名張へ移住し、スパイスカレー店を開業  
**杉本美和子**さん



**Profile**  
家族4人で、令和2年12月に枚方市から赤目町柏原の古民家へ移住。市の「若者移住定住チャレンジ支援事業」(空き家や空き店舗を活用した創業に補助)に採択され、昨年2月、自宅に併設したスパイスカレー店をオープン。地元の食材を盛り込んだカレーと店主の人柄が人気を呼んでいる。写真は、杉本さん家族とお客さん

## 魚の 夢の数珠つなぎ

### 人の温かさに触れ、移住して間違いなかったと確信

いつか古民家で飲食店をするんだという夢をかなえるために、赤目へ移住。地元の人とうまくやっていけるだろうかと心配していましたが、そんな不安は、すぐに吹き飛びました。

古民家の改装作業をしていると、通りがかりに声をかけてくれる人や、わざわざ見に来てくれたり、親切に自分で作った野菜を持ってきてくれた人もいました。中には、木が生い茂って困っていたら、「切ったるか?」という人も。「家の完成までまだまだやなあ」「工事、手伝っていきませんか?」積極的に近所の人と関わっていきたくて思っていたので、そういう会話もすごく楽しかったですね。なんだか、近所の皆さんと一緒に家を改装していった感じです。

カレー店の開業に向けて、地元で採れた野菜を購入できる場所を探していると、家の裏の人が農家で、「ええとご紹介したるわ」と、ご近所にいるたくさんの生産者と結び付けてもらいました。野菜を購入するだけの関係ではなくて、プライベートでもご飯を食べに行ったり、車が壊れたときに助けってもらったりするうちに、絆が生まれてきたなと感じました。お店がオープンしたとき、近所の人たちがたくさん来てくれてすごく嬉しかったです。

今もその光景が目に残っています。本当に近所の人温かくて、赤目へ移住してきて間違いなかったですね。

### 出会いの数だけ夢が増えていく

私はおしゃべりが大好き。だから、すぐにお客さんにも話しかけちゃって。考案しているメニューの相談をすることもあるんですよ。人が興味を持っていることや一生懸命取り組んでいることに興味津々。自分が知らないことや経験したことがないことも自分の糧にしたいから、積極的に話しかけないと「もったいないな」って思ってしまうんですね。

今は、古民家の一室を使って、絵画の個展や、ヨガや子育てに関する教室ができたらいなって考えています。絵を描いている人、ヨガの先生、抱っこやおんぶのやり方の先生、絵本の読み聞かせなどの講師として招こうと考えているのは、実は、みんなお店のお客さんで、おしゃべりから生まれてきたアイデアばかり。お客さんと出会うたびに、やりたいことが増えてきて、どんどん夢が膨らんじゃう。いつかこのお店が、地元の人が集まり、人と人がつながって、みんなの夢がつながっていく、そんな場所にもなっていけば嬉しいな!

## フランス育ちのローカルヒーロー

### 忍びの勇者「イガジャー」に変身!

生まれ育ったフランスでは日本の文化がすごく人気。小さいころから、日本の文化に触れる機会も多く、5歳のころは柔道も習っていました。一番夢中になったのは戦隊ヒーロー。フランスでも、日本の戦隊ヒーロー番組がテレビで放映されていました。大人になり、メンバーが80人以上もいる戦隊ヒーローファンのグループを作ったりもしました。

日本への移住後、ローカルヒーローのイベントを見る機会がありました。自分にもできるのではと思って作ったのが、忍びの勇者「イガジャー」のグッズでした。イベントで、私がヘルメットを取ると、顔を見てみんな驚くんですよ。まさか、外国人が演じているとは思っていませんからね。

### みんなの笑顔が私の幸せ

コロナでイベントが中止になる中、子ども向けの感染対策のポスターを作成。イラストは、フランスにいる友達の漫画家に描いてもらいました。多文

化共生センターなどに配布して、コロナに負けず、一緒に乗り越えようと訴えかけています。

また、忍者スポーツ「手裏輪」の普及にも力を入れています。「手裏輪」は、輪投げの要領で的棒を狙うスポーツ。イガジャーがイメージキャラクターなんです。11月には市内の全小学校に「手裏輪」の用具セットを寄贈しました。簡単そうで、意外と難しい。そこが「手裏輪」のおもしろいところ。名張市民センターにも置いてあるので、皆さんもぜひ体験してみてください。

来年には、パリで開催されるジャパンエキスポに参加することになっています。ジャパンエキスポは、日本文化の祭典で、日本でも取り上げられるくらいフランスでは大規模で有名です。こんなビッグなイベントに参加できるなんて、今からすごくワクワクしています。名張の魅力をフランスで発信する橋渡しをしたいですね。

息子たちは「パパかっこいい」と言って、自分のお父さんがヒーローをしていることを喜んでくれています。自分の好きなことをやっていて、みんなが楽しんで、喜んでくれる姿を見るとすごく幸せ。いつか、仲間を集めて、戦隊ヒーローショーをすることが私の夢です。



地域おこし協力隊  
**長谷川幸太郎**さん



**Profile**  
山口県出身。妻の未紗さんとともに、地域活性化に取り組む「地域おこし協力隊」として昨年4月着任。前職は、アニメの店舗運営やイベント企画業務。第1水曜午後0時20分からFMなばり「なばれ! コー太郎!」に出演中。地域おこし協力隊の活動はこちらから

## なばる宣士 知ってだあこ隊

### ディープな名張を満喫中

昨年の4月、子育ては地方でとの思いで、東京から名張へ。妻とともに「地域おこし協力隊」として着任しました。「地域おこし協力隊」と言っても「なにをするの?」となるので、通称を「なばる宣士 知ってだあこ隊」としました。「なばる」とは「名を張る」ということ。「自分たちのまちを誇りをもって紹介していこう」という思いを込めました。

名張へ来てまだ1年も経っていませんが、地域の人は、子どもたちをすごくかわいがってくれて、まるで親戚のおじちゃんやおばちゃんのように。市内のカフェは、地元野菜をふんだんに使った料理がリーズナブルで、素晴らしい景色もマッチしてレベルが高い。それに、地元の人が集う小さな居酒屋を訪れたり、まちのことなら何でも知っている生き字引のような人と出会ったりと、ディープな名張も満喫中です。

### 得意なこと・好きなことを生かして、まちを元気に

とにかくアニメが大好き。大学卒業後は、アニメキャラクターグッズの販売店舗運営やイベントを企画する会社に就職。仕事では、ファンが愛するキャラ

クターを、まずは自分が好きにならないと商品は売れないし、長続きしないことを学びました。例えば、「アニメのキャラクターは呼び捨てにしない」が鉄則。在庫のキャラクターグッズの箱に「OOくん」と書いていると、これを見たファンがツイッターに投稿。「キャラクターがすごく大切にされている」と広まりました。このことは、まちづくりにも通じることかもしれません。

名張は、立地や歴史、市街地や自然の雰囲気など、ほかのまちに比べて、それぞれの平均点は高いのですが、統一的なイメージが無いのか、つかみどころがない。だから、「名張には何も無い」という人が多いのかも。まずは、名張の人に、もっと名張を好きになってもらう。そして、外に向けて名張を自慢してもらえるよう、観光客や移住者はもちろん、名張の人にも名張を知ってもらう活動を大切にしていきたいですね。

そのうえで、一人ひとりが得意とすること、好きなことを生かして、まちの活性化に結び付けていける、そんな流れをつくってほしい。私の場合、市内の空き家を活用して、前職の知識や経験、人脈を生かしたアニメグッズ販売ができれば。それに、まちの人にいろんなことを教わりながら、移住希望者とまちの人をつなぐたり、移住者の視点から名張の魅力を発信できる場所もつくっていきたくて考えています。

## ローカルヒーロー「イガジャー」として活躍 ジェラードン・シモンさん



**Profile**  
結婚を機にフランスから日本へ移住。子どもが生まれた2007年に妻の出身地である名張へ。普段は介護施設で働く。休日は忍びの勇者「イガジャー」に変身し、伊賀地域のPR活動や、「手裏輪研究会」の人たちと「手裏輪」の普及活動を行っている。3児の父。百合が丘在住



子どもたちに「手裏輪」を教えるイガジャー



子どもたちにも分かりやすく、かわいらしいイラストを使用した新型コロナ感染対策ポスター

夢をもって名張へ移住してくる人がいます。日本中、世界中のいろんな夢が名張で出会い、夢の“化学反応”が起きる。そんな“化学反応”が広がっていけば、名張がすごくおもしろいまちになっていく気がしませんか—

名張市民の

# 夢



HPはこちら



がん・難病患者相談員  
広野 光子 さん



Profile

50代で乳がんと卵巣がんの闘病を経験。平成7年に、がん患者の全国組織「がんを明るく前向きに語る・金つなぎの会」を設立し代表に。平成17年からは、がん・難病患者相談員として活躍。講演会「名張で学ぶがん医療」開催など、80歳となった今も精力的に活動続ける。自宅(富ヶ丘=写真)での「祈りの電飾」は28年目を迎えた。

がん・難病相談：毎月第3土曜日(詳しくは15ページ)

日日是好日

きっと良くなる。必ず良くなる。

家事や介護、そして記者の仕事をも愚直に一生懸命やってきた。そんな私がどうしてがんに…。何か悪いことをしたの？たてよもないぐらい悔しかった。30年ほど前のことです。後で知りましたが、私は「余命半年」でした。

医療だけでなく、周囲の環境も含めて調和がとれると、元気になれる——。闘病中にそんな考え方を知り、同じ病棟の患者を誘ってラジオ体操をしたり、歌を歌ったりしました。同じ境遇の人たち同士、心が通じ合っただけです。そんな中、夫が病気で亡くなりました。すごく落ち込みましたが、「息子が一人前になるまで生きなくては行けない」、そう決意しました。

私の闘病記が新聞に連載されるようになったのもそのころです。今でこそ、インターネットに闘病記があふれていますが、当時は珍しかったんですよ。その読者が集まって発足したのが「がんを明るく前向きに語る・金つなぎの会」でした。会の仲間と旅行をしたり、温泉に入ったりと「心と体に良いこと」に「まじめに楽しく」取り組みました。当初24人だった仲間は、現在全国に1,600人以上。お互いを励まし合いながら、「きっと良くなる。必ず良くなる」。そう言い切ることで、すごく力が湧いてきます。希望をもって生きなければ、生まれた甲斐がないと思うんですよ。

誰かのため、仲間のために

がん末期の青年が、最期は人を寄せ付けずに亡くなったことがありました。「心と体はつながっている。もう少し早く出会って、いろんな話をすれば」。そんなことを市長にお話ししたことがあります。それが、「がん・難病

患者相談」創設のきっかけとなりました。地域の老人会の皆さんがたにサポーターとして支えていただきながら、はや15年。延べ500人以上の悩みに耳を傾けています。最近、相談者から「誰かの役に立ててほしい」と、がんの専門書をたくさんお譲りいただきました。相談室に図書コーナーを設け、相談者が集えるサロン活動も始めていきたいと考えています。

平成22年からほぼ毎年開催している講演会「名張で学ぶがん医療」や、がんや難病患者を励まそうと毎年自宅を飾り付ける「祈りの電飾」など、医療従事者や地域の皆さん、事業者、金つなぎの会の仲間ほかいろんな人に支えていただいています。自分のためというわけではなく、誰かのため、仲間のためにと続けていくうちに、大きな輪になっていったのだと思います。

幸せのハードルを低く設定すると、いくらでも楽しく生きられる

闘病中は、痛みや不安で眠れない日が続く、癒しとなったのがラジオでした。80歳になった昨年、ついに念願の声優デビュー。アナウンサーに交じってレッスンをこなし、FM千里(大阪)でラジオドラマに出演。インターネットラジオも開設し、童話の朗読にも挑戦します。毎日更新している金つなぎの会のブログを楽しみにしてくれている人もいますし、日本舞踊やコーラスなど地域のつながりも大切にしたい。ジャーナリストとして物書きの仕事もある。自分が3人いてほしいぐらいですが、<sup>にちにもこれこうじつ</sup>日日是好日。目が覚めて幸せ、良い天気でも幸せ、クーポン券で割引してもらっただけでも、心に灯がともる。幸せのハードルは低く設定する方がよい。小さな幸せでいくらでも楽しく生きられます。今日一日が良ければ、それでありがたいと、いつの間にか自然に手を合わせてしまう。そんな、感謝の気持ちで毎日を過ごしています。

令和4年 今年の一文字

市長と市議会議員が、今年の抱負を漢字一文字で表しました

「心」健やかに「心」から  
幸せを感じられるまちを  
目指し取り組みます。

名張市議会議員 永岡 禎

「心」健やかに「心」から  
幸せを感じられるまちを  
目指し取り組みます。

名張市議会議員 永岡 禎

市長 亀井 利克

市政は、次から次へ、継続して引き継がれていきます。